

指標分類		九州ブロック方針	目標値 (R6)
工 事	《指標①》 地域平準化率 (施工時期の平準化)	各発注機関において、以下の取り組みを行うことにより、より一層の施工時期等の平準化を推進する。 ①計画的な発注の推進 (早期発注や債務負担行為の適切な活用) ②適切な工期の設定 ③余裕期間の設定 ④工期が複数年度にわたる工事等への適切な対応	R6年度までに九州ブロックにおける 地域平準化率 (九州ブロック単位) 0.80 を目指す。
	(4~6月期の工事平均稼働件数) / (年度の工事平均稼働件数)		
	《指標②》 週休2日対象工事の実施状況 (適正な工期設定)		
週休2日対象工事件数 (公告等) / 全工事件数 (公告等)			
業 務	《指標③》 低入札価格調査基準又は最低制限価格の設定状況 (ダンピング対策)	各発注機関の実情を踏まえ、ダンピング対策として低入札価格調査基準又は最低制限価格の設定率を上げていく。	R6年度までに九州ブロックにおける 実施率 (九州ブロック単位) 1.00 を目指す。
	(低入札価格調査基準又は最低制限価格を設定した入札件数) / (年度の発注工事件数) ※年度の発注件数は、随意契約を除く発注件数		
	《指標①》 地域平準化率 (履行期限の分散)		
(第4四半期 [1~3月] に完了する業務件数) / (年度の業務稼働件数)			
業 務	《指標②》 低入札価格調査基準又は最低制限価格の設定状況 (ダンピング対策)	各発注機関の実情を踏まえ、ダンピング対策として低入札価格調査基準又は最低制限価格の設定率を上げていく。	R6年度までに九州ブロックにおける 実施率 (九州ブロック単位) 1.00 を目指す。
	(低入札価格調査基準又は最低制限価格を設定した入札件数) / (年度の発注業務件数) ※年度の発注件数は、随意契約を除く発注件数		

九州独自指標におけるR6目標値

指標分類		九州ブロック方針	目標値 (R6)
工 事	《指標①》 最新の積算基準の適用状況及び基準対象外の際の対応状況(見積もり等の活用)	全ての発注機関(国、法人等、県、市町村)で最新の積算基準を適用し、かつ、基準範囲外の場合の要領を整備し活用するように改善を図る。	R6年度までに九州ブロックにおける適用・対応率1.00を目指す。
	【適用・対応率 (aの機関数/全機関数)】 a:最新の積算基準を適用し、かつ、基準範囲外の場合の要領※を整備し活用 b:最新の積算基準を適用しているが、基準範囲外の場合の要領※は整備していない c:その他 (※基準以外に一定のルールを定めている場合を含む)		
	《指標②》 設計変更ガイドラインの策定・活用状況	全ての発注機関(国、法人等、県、市町村)で設計変更ガイドラインを策定し、これに基づき適切な設計変更を行うように改善を図る。	R6年度までに九州ブロックにおける策定・活用率1.00を目指す。
	【策定・活用率 (aの機関数/全機関数)】 a:ガイドラインを策定・活用し、これに基づき設計変更を実施 b:設計変更ガイドラインは未策定だが、必要に応じて設計変更を実施 c:設計変更を実施していない		
業 務	《指標③》 ウィークリースタンスの実施	全ての発注機関(国、法人等、県、市町村)で、ウィークリースタンスの実施を位置付けるように改善を図る。 ※災害等の緊急を要する業務については対象外とする。	R6年度までに九州ブロックにおける実施率1.00を目指す。
	【実施率 (aの機関数/全機関数)】 a:特記仕様書へウィークリースタンスの実施を位置付けている b:特記仕様書へウィークリースタンスの実施を位置付けていない		